



よい子 つよい子 できる子

新井小学校たより 11月号

令和元年 11月 26日

HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

音楽の力とすばらしさ

校長 宮野 正則

晩秋の寂しさとともに冬の訪れを感じる季節となりました。10月から11月にかけて、妙高市の小・中学校の音楽発表を聴く機会がありました。

- ◇10月19日（土）新井小学校 若竹フェスティバル「音楽発表会」
発達段階に応じた合唱や合奏で、学年ごとの工夫が見られました。
- ◇10月20日（日）新井中学校 吹奏楽部 秋色コンサート
バリエーションに富んだ迫力ある演奏を今年度の集大成として披露しました。
- ◇10月31日（木）創立50周年記念 新井中学校 音楽祭
自分たちの抱いた曲のイメージを学級ごとに豊かに表現しました。
- ◇11月7日（木）妙高市小・中・特別支援学校 音楽発表会
各学校の特色が表れた合唱や合奏、マーチングでした。

いずれの発表会もこれまでの学習や練習の成果が表れており、子どもたちは自信にあふれ、豊かな表情で、生き生きと楽しそうに発表していました。堂々とした歌唱や演奏に引き込まれながら“音楽のすばらしさとは何か”“聴く人を魅了する音楽の力とは何か”を考えました。

表現する側にとっては、「楽譜どおりに楽器の演奏ができるようになった」「みんなの心を一つにして美しいハーモニーを響かせることができた」「イメージした曲想を追求し表現することができた」など、歌唱や演奏の楽しさと達成感、みんなで創り上げる喜びなどがあげられます。

鑑賞する側からは、「落ち込んでいたけれど、勇気が湧いてきた」「喜怒哀楽の感情がこみ上げてきた」「心地よくなり癒された」など、音楽による気分の高揚、感動、安らぎや癒しなどがあるのではないのでしょうか。

コンサート終了後、しばらくの間、席に座ったまま余韻に浸っていただきます。これこそが、言葉では表現しきれない音楽の力であると思います。

私は、20代の頃から車を運転しながら音楽を聴くことが好きです。時代の変遷とともに、音源がカセットテープからCD、ミュージックサーバー等になりましたが、今でも70年代や80年代から現在までのヒット曲を楽しんでいます。歌詞やメロディーによってその当時の社会の出来事や思い出がよみがえり、曲と人生の節目の喜びや苦労などが重なり合います。これも音楽の力であると実感しています。

これからも様々な教育活動をとおして音楽の楽しさにふれさせながら、音楽のすばらしさを感じ取らせていきます。

『あいさつ・正しい言葉づかい』の取組

妙高市では春と秋に「All 妙高あいさつ運動」を行い、市全体で明るく元気なあいさつを奨励しています。新井小学校でも様々な機会を捉えて、あいさつ運動を行ってきたことにより、子どもたちのあいさつもよくなってきています。ただ、個人差も大きく、場に応じた気持ちのよいあいさつは十分とは言えません。言葉づかいについては、前期学校評価で約6割の保護者の方が肯定的な評価をしていますが、お子さんの言葉づかいが悪いと感じている方も多くいらっしゃいます。授業やフォーマルな場面では子どもたちの言葉づかいはよくなってきています。しかし、休み時間や子ども同士の会話を聞いていると正しい言葉づかいがきちんと身に付いているとは言い難いようです。今後も継続的な取組を行っていきますので、是非、ご家庭や地域の皆様からも協力していただき、みんなであいさつや言葉づかいの向上を目指していきたいと思ひます。

＜All 妙高あいさつ運動＞中学生と



＜あいさつ運動 1年生＞

「朝元気スタート」キャラクターと



イエローリボン運動の取組

11月20日（水）～11月26日（火）の1週間、『いじめ見逃しゼロ週間』の取組を行いました。1回目に引き続き、どんな小さないじめも見逃さない！そして、いじめをゼロにする！！という気持ちでイエローリボン運動を行いました。学校生活では、年齢も個性も家庭環境も異なる大勢の子どもたちが集団生活をしながら一人一人の目標に向かって努力しています。時には我慢したり、折り合いを付けたりすることも必要ですが、子どもたちは周りの人たちと力を合わせて乗り越えようと頑張っています。ただ、休日や放課後などの子どもたちの過ごし方を見ると、外で汗を流して遊ぶ姿が少なくなり、ゲームやインターネット等に触れる機会が増えているように思ひます。

そこで、イエローリボン運動の期間中には友達同士がかかわり合い、よさや違いを認め合うことができるような活動を行いました。また、いじめ見逃しゼロ集会では、生活安全委員会の子どもの劇を見て、いじめについて考えたり話し合ったりしました。これらの活動を通して学んだことを是非これからの生活に生かしてほしいと思ひます。



ふれあい遊び



いじめに関する劇・生活安全委員会の発表



ふれあい給食



特別支援教育 ～はねうま学級の紹介～

「はねうま学級」では、今年度、『お試し通級』を含め70名の子どもたちが学習しています。ほとんどの子どもたちが、国語と算数で「はねうま学級」を利用し、個に合ったスタイルで、通常の学級と同じ内容を同じ進度で学習しています。

また、「自立活動」にも力を入れて指導しています。様々な体験を通して、「自分の気持ちを相手に伝えること」「自分の気持ちをコントロールすること」「集中して話を聞き大切な内容を理解すること」等の力を伸ばせるよう取り組んでいます。



はねうま自然教室に向けて、焼きそば作りの練習をしました。手際よくできるようになりました。



運動会で使ったハチマキをクリーニング。上手に、アイロンがけができました。

ブドウの収穫体験。おいしいブドウを作ってくださいと青山さんに感謝です。



上越特別支援学校の友達との居住地交流会。クイズや、手作りのボーリングゲーム、おやつタイムで楽しく過ごすことができました。



毎年、妙高自然の家で、はねうま自然教室（宿泊体験）を行っています。今年は天候に恵まれ、夜、星の観察をすることができました。素晴らしい星空に歓声が上がりました。また、関山駅から、1人ずつ切符を買い、電車に乗る経験もできました。



子育て広場の紹介をします

昨年度に続き、今年度も年に8回の『子育て広場』を開催しています。今年度は、保育園年長組の保護者の皆様にも案内を配付し、共に子育てについて学んでいます。学校カウンセラーの先生も時々参加していただき、アドバイスをいただきながら、和気藹々と楽しく進めています。



さて、今年度のテーマは「アドラー心理学を用いた『勇気づけの子育て』」です。毎回10名前後の保護者の皆様が参加していただき、子育てについての悩みを語り合ったり、親子が仲良く家庭生活を送るための方法を学んだりしています。11月までに6回実施した中で出されたポイントを簡単にまとめてみました。

1 回 目	昨年度に続いて「親業」の話をしました。「親業」の3つの柱は、①聞くこと、②話すこと、③対立を解くことです。子どもが心を開いて本当の気持ちを親に話せるよう「能動的な聞き方」をします。自分の考えを話す際は、「わたしメッセージ=アイメッセージ」で伝えます。親子の対立が生じた際は、「勝負なし法」で対立を解きます。
2 回 目	「アドラー心理学」の基本的な考え方を学びました。子どもの困った行動には「目的」があり、子どものよいところに注目すると、困った行動が減っていきます。行動には相手役がいて、反抗的な子どもの前には、反抗的な要素を引き出す強圧的な大人がいると考えます。子どもの力を信じて子どもに任せ、見守ることが大切です。
3 回 目	親子は、「たて」ではなく「よこ」の関係です。人間としての存在価値や尊厳は、親も子ども変わりません。子どもの課題（やるべきこと）に親が入って、指示や命令をすることはやめましょう。子どもが自立に向けて学ぶ機会を奪ってしまうこととなります。子どもがもつ「自分で自分を教育していく力」を信じ、失敗をとがめず、子どもの気持ちに寄り添いながらサポートしていきましょう。「しつけ」のポイントは、「何のためにそうするのか」を説明することです。怒りながらがみがみ教えるのではなく、楽しい雰囲気の中で「こういう時は、こうするんだよ」と伝えることが大切です。
4 回 目	子育ての目標は、子どもの自立です。子どもが自分で考え、判断し、行動できるようになるためには、子どもの頃から様々な経験をし、試行錯誤をしながら成功体験を積むことがとても大切です。「失敗=いけないこと」と捉える人が多いと思いますが、失敗は成功への第一歩です。失敗ではなく、うまくいく途中と考えましょう。人は欠けていることに目が向き、ひき算の考え方をしがちですが、思い切ったし算の考え方をし、子どもを信頼して待つことが大切です。それが、子どものパワーになります。
5 回 目	兄弟喧嘩の目的は、親の注目を得ることです。親の注目という賞品をかけて、兄弟間で競争しているのです。親が喧嘩に介入し続けると、子どもの課題解決の力（喧嘩の収束の仕方を学ぶ機会）を奪ってしまうこととなります。兄弟喧嘩は子どもの課題なので、基本的には自分たちで解決してもらいます。子どもの性格は、様々な要因によって影響を受けますが、10歳くらいまでに試行錯誤を繰り返しながら、自分で選んでいるものと考えます。子どもをありのままに受け止めていきましょう。
6 回 目	自分に自信をもてず、周りの目や他者からの評価を気にしている子どもが多いです。自信をつけるためには、「勇気づけ」をお勧めします。「勇気づけ」は、お母さんにも必要です。「私は、毎日よくやっているよね」と自分自身を勇気づけてみましょう。お母さんの心のコップが勇気で満たされないと、子どもの心に勇気をあげることはできません。完璧な人間がこの世に存在しないように、完璧な母親も存在しません。できないことに目を向けるよりも、できていることに目を向け、子どもと共にゆっくり成長していきましょう。立派なママよりも幸せなママになりましょう。また、家族のチームワークを高めるため、自分の気持ちを伝えて相談し、協力し合うことも大切です。